



愛知県立愛知総合工科高等学校・附属中学校 加藤満明校長 インタビュー

加藤 満明（かとう・みつあき）1968年1月、愛知県瀬戸市生まれ。1988年3月、高等学校専攻科卒業。同年4月、三井木材工業（現ニチハマテックス）入社。92年4月、愛知県教員になり、実習教員を勤めながら名古屋工業大学に通い1998年3月卒業。2012年、愛知県総合教育センター研究指導主事。14年、愛知県教育委員会指導主事。20年、愛知県立小牧工業高等学校（現愛知県立小牧工科高等学校）校長、25年、愛知県立愛知総合工科高等学校（現愛知県立愛知総合工科高等学校・附属中学校）校長就任。



愛知県のモノづくり人材育成の中核拠点として設立された県立愛知総合工科高校（名古屋市千種区星が丘山手）は今年10周年を迎えたが、4月から附属中学校が開校し、全国初の工科系の中高一貫校としても注目されている。同高校・附属中学の加藤満明校長に話を伺った。

—御校の設立の経緯を教えてください。

加藤校長 1901（明治34）年、愛知県の工業教育の拠点として県立工業学校が文部省から認可されて開校。一方で1939（昭和14）年、愛知県機械工業学校が開校。両校は、1948（昭和23）年、学制改革により愛知工業高校、千種工業高校となり、同年、2校が統合され、愛知工業高校となった。

さらにその後、59（昭和34）年、現在の校地に東山工業高校が開校。2011（平成23）年、東山工業高校が閉校となり、跡地に両校を統合する形で県立愛知総合工科高校が建設されて16（平成28）年、開校。これに伴い愛知工業高校も18（平成30）年に閉校しました。

愛知県の工業教育の拠点として社会や時代の変化に主体的に対応し、地域や日本の産業の未来を担い、グローバルに活躍できる技術者の育成を目指しています。目指す生徒像は豊かな人間性、チャレンジ精神、バイタリティとリーダーシップを備え、技術を通じて社会の発展に寄与しようとする生徒です。

—4月から中高一貫校としてスタートしましたが、工科高校としては全国初です。

加藤校長 愛知県は公立校として中高一貫校の導入を2025年から始めました。同年の導入校は

明和、刈谷など4校。2次導入が今年からで、豊田西、西尾、時習館、日進とわが総合工科の5校が選ばれました。

いずれも「チェンジメーカーの育成」が理念に掲げられています。これは正解のない課題に挑む・仲間と協働する・失敗を恐れず挑戦する、といった力を重視する考え方です。

本校附属中学の教育理念も「本物の科学技術・モノづくりに触れ、柔軟な思考と可能性を広げ、DX（デジタルトランスフォーメーション）をリードしグローバルに活躍できる技術者を育成する」としています。

全国的に理系人材が不足しており、さらに少子化の波。文系はAI（人工知能）に置き換えられますが、それができない分野が理系と言われています。そこをしっかりと育てる。より早い段階から理系に興味を持たせるのです。

今回導入の中学1年は1クラス35人定員。100人の志望があり競争率2.8倍。附属中の競争率は大体2倍くらいだったのでまずまずです。モノづくりが好き、とか地域の発明クラブに入って興味を持った、ミニ四駆の全国大会に出場した、とかユニークな子もいて楽しみです。

本校は理工探究コースの附属中学なので、数学・